



鳥取市教育センターだより

第2号 平成25年7月25日発行

〒680-0053

鳥取市寺町150番地

TEL 0857-36-6060

FAX 0857-26-3878

E-mail kyo-center@city.tottori.lg.jp

三つの幸せ

早いもので、平成25年度がスタートして4か月が過ぎようとしています。鳥取市教育センターでは、現在8名（すなはま教室：7名、けたかレインボー教室：1名）の児童生徒が適応指導教室で学習や体験活動に取り組んでいます。また、研修企画では「言葉の力をつける教師力アップセミナー」や「きなんせ！ English World」の新たな企画を展開しています。また、気になる子を支援する力をつける「ひびきセミナー」も現在5校で申込みがあり、学校現場のニーズの高さを感じています。

さて、先日読んだ本の中に、「三つの幸せ」という内容がありました。一つ目の幸せは「してもらう幸せ」。二つ目の幸せは「できる幸せ」。そして三つ目の幸せは「してあげる幸せ」です。これは人の一生で考えてみるとわかりやすいと思います。オギャーとこの世に生を受けてから、親や周囲の人からお乳を与えられたり、オムツを替えてもらったりと、たくさんの「してもらう幸せ」を受けます。そして、だんだんと自分で歩いたり、食べられるようになり、「できる幸せ」が増えていきます。自立していくのです。その後社会人となり、仕事等を通して社会に貢献する、また親となって子どもを育てていく。つまり「してあげる幸せ」。歳をとっていくと、「できる幸せ」から「してもらう幸せ」と移行して一生を終えるのではないのでしょうか。つまり「してあげる幸せ」を頂点とした大きな幸せの流れがあると思います。乳幼児期に十分に「してもらう幸せ」を感じた子どもたちは、児童期になると「できる幸せ」を増やしながらか大きく成長していきます。そして、青年期になるとより崇高な「してあげる幸せ」を目指して社会人となっていきます。

ところが、子どもたちの中には、「してもらう」ことは「当たり前」、「できること」に「喜びを感じない」、「人のため」より「自分さえよければ・・・」といった様子がみえることもあります。今、目の前にいる子どもたちは、20年後、30年後の日本いや世界を背負っていく大切な子どもたちです。



家庭教育を基盤としながら、保幼小中の連携した教育を通して、「してもらう幸せ」から「してあげる幸せ」へと自立していく子どもたちを育てていく使命が私たちにはあると思います。この長期休業を活用して、広い視点で私たち教師としての「命（めい）」について考えてみてはどうでしょうか。

孔子先生は、常に次の4つのことを大切なこととして教育された。それは、「学問」「実行」「誠実」「信頼」である。

所長 保木本 倫久

温故創新 研修企画係がお届けします

子どもたちが学校にやってきて学ぶことの意義について、論語の中にヒントを求めてみたいと思います。

顔淵第十二編に「君子以文会友以友輔仁（君子は文を以て友を会し、友を以て仁を輔く）」という章句があります。授業と学級経営は車の両輪といえますが、学校にやってきているいろいろなタイプの学級の仲間と切磋琢磨しながら学ぶことで人として向上し、授業で学んだことが単なる「知識」とどまらず、人生で役立つ「知恵」にまで高まると解釈できると思います。全国的に課題とされる「学ぶ意欲を高め活用力を育てる」価値ある授業は、このようにして実現されるのではないのでしょうか。

教師の資質向上なくして子どもたちの学力向上なし ー強い使命感の共有をー

6月21日（金）、国府町中央公民館を会場に開催した**第1回鳥取市小・中学校講師研修会**では、子どもたちの学力向上のために教師は何をすべきか、ということについて学びました。人はなぜ勉強しなければならないかという永遠のテーマについて参加者全員で考えた後、中学校区のまとまりをベースにしたグループ別に、学ぶ意欲を高め活用力を育てる授業づくり・学級づくりについて、模造紙と付箋紙を使いながら話し合いました。

今後の講師研修会は、それぞれの勤務校での各自の実践（第2回）と、いくつかの学校での分散開催による先輩教師の授業参観と校長先生の講話（第3回）です。講師の先生方のスキルアップを通して、それぞれの学校における校内研修が活性化することを期待しています。



子どもたちをひきつける授業がしたい... 学級をうまくまとめたい...

教師ならだれもが抱くこの二つの願いをかなえるため、教育センターでは全4回シリーズの**言葉の力をつける教師力セミナー**を企画しました。セミナーの講師は、前南中学校長の小山敏夫先生。古典や国語科の内容に関する講話や演習、参加者同士の情報交換をもとに、授業力と人間力の向上をめざします。7月6日（土）に開催した第1回セミナーでは、第1部で、小山先生のご体験や論語の章句をもとに、いじめを防止し教室に正義をもたらす指導のあり方や教師の姿勢を考えました。また、第2部で、「モアイは語る」をもとに、説明的文章の教材を分析して力をつける授業のあり方についてご指導いただきました。



なお、セミナーの参加者はその都度募集します。年間4回のセミナーのうち、一部のセミナーへの参加も可能です。主として若い先生方を対象としたセミナーですが、もちろん、どなたでも参加できます。第2回セミナーは8月3日（土）の開催です。（詳細は以下のURLを参照）

<http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391/activesqr/common/other/51de3806002.pdf>

この夏 君は英語のクレヨンで何を描く？



鳥取市内の小学校5・6年生の希望者を対象に、外国語活動の授業で慣れ親しんだ音声や基本的な表現を使って、外国人とのコミュニケーションを体験できる場、**きなんせ！ English World** を企画しました。子どもたちが英語を介して世界とつながることで、ふるさと日本・鳥取を大切に思う心や自尊感情が育まれ、自立した真の国際人に成長してくれることを願っています。初回は7月27日（土）の開催です。（詳細は以下の URL を参照）

<http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391/activesqr/common/other/51dbae25002.pdf>

本の紹介

今回取り上げた論語に関する本をいくつか紹介してみたいと思います。

- ・親子で楽しむ子ども論語塾 その1～その3（安岡定子、明治書院）
- ・小学生のための「論語」（斎藤孝、PHP）
- ・新釈漢文体系1「論語」（吉田賢抗、明治書院）
- ・論語一日一言（伊與田覺、致知出版社）

「なぜ、勉強するの？」「どう生きればいいのか？」「友だちと仲良くするには？」一。心の奥までぐっぐと入ってくる「論語」の知恵は、一生の宝になります！（「小学生のための論語」帯より一部掲載）。これ以外にも、本当にたくさんの本が出版されています。この夏休みにぜひ一冊いかががでしょう。

教育相談より ワンポイント！

子どもから話を聴くときのコツ

何か問題を起こした子どもから話を聴くときに大切なことは、まず**子どもの発言を受容的な気持ちで聴く**ことです。教師側が主導権を持ちながら、子どもと話をすることがよくありますが、その際、気をつけなくてはならないことは、教師の理屈を当てはめて子どもに接することです。子どもは叱られているという思いが強く、心の中を閉じてしまいがちになります。そうすると、本当の問題解決につながらず、子どもに言い訳をさせたり、より大きな問題を起こさせることにもつながっていくケースも考えられます。



子ども自身に問題の本質を気づかせるためには、子どもが何をどのように考えたからそのような行動になったかという、子どもの言い分をしっかりと聴きながら対話を続けることです。この対話を通して、子どもと教師の距離が近づき、お互いにわかりあえるようになります。そしてお互いになぜ今回の問題が起きたのかという理解が進むのです。このようにして問題理解が進むと、「問題は〇〇のせいだ」というような考えは出なくなります。つまり、起こした問題を子ども自身が自分のこととして捉えることができるようになってきます。**急いで原因探しをせず、ゆっくりと穏やかに子どものほうを向きましょう。**子どもは信じてもらえると思えるだけで、心を開き、自ら立ち直っていくのです。

ひびきセミナー

教育支援係

5月の特別支援教育主任研修会でご紹介した「ひびきセミナー」ですが、現在、5校から校内研修として実施したいと申し出があり、小学校1校ですでに実施しました。夏休み中に計画されている学校が多いですが、今後も随時受け付けをします。検討資料の準備や当日の進行等、教育センター教育支援係が支援いたします。→ 問い合わせ先：教育支援係 石岡まで

ひびきセミナーの基本的な考え方は、学校で実施される事例検討会や支援会議で活用できます。東部教育局のホームページに、40分間でできる「インシデントプロセス法を取り入れた事例検討会」が紹介されています。(http://www.pref.tottori.lg.jp/220374.htm) ととても参考になります。校内で一人の児童生徒の支援会議の開催を想定したときに、この40分というのは現実的な時間だと言えます。基本的な考え方は同じなのですが、**ひびきセミナーは約2時間の設定としています。それは、事例検討会であると同時に、全教職員の検討会そのものを経験してスキルアップする研修でもあるため**です。そのため、該当児童生徒の事実・情報収集の手法から、特性理解の仕方、支援方法の視点の提示など、スーパーバイザーである『エール』鳥取県発達障がい者支援センターの指導助言のもとに、ていねいに進めていきます。1度経験することで、次の機会には、特別支援教育主任の先生などを中心に校内で実施していきますやすくなります。校内での問題解決能力を養う意味でも、ひびきセミナーは役に立つと考えています。

ひびきセミナーの手順についてご紹介します。まず、基本となる考え方は、右図の「冰山モデル」です。水面上の行動はよく目につきますが、そこにばかりに着目しないで、**水面下の個々の子どもの特性についてしっかり考えます**。その際の情報は、該当の子どもの学校生活（各教科の学習や学校行事など登校～下校までの様子）のエピソードの収集を大切にします。そして、その特性を踏まえて、具体的な支援を考えます。支援の視点は以下の4点です。

- ・ 個別（本人）への手だて
- ・ 集団（学級）への手だて
- ・ 校内体制（学校組織として）
- ・ 家庭との連携（保護者支援）

気心の知れた校内の先生方5人程度のグループで具体的な支援を話し合い、グループごとに発表します。この発表を聞いたのち、特別支援教育主任や事例提供の担任の先生

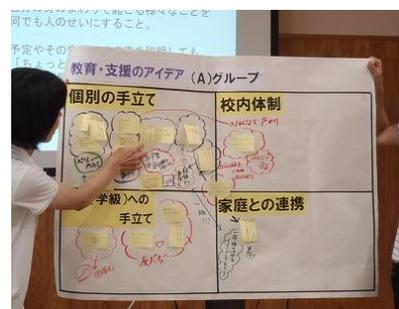


を中心にして、今後の支援の優先順位や役割の明確化などをしていただけるとよいと考えています。

← グループでの支援策を協議の様子

子どもの行動の見方

冰山モデル（行動の理解モデル）



↑
グループの発表の様子